

「情報の信憑性」

1月11日記 千葉の県人 鎌田 留吉

大発会の日友人から誘いがあり、一杯飲み屋で会うことになった。そこで流されているTVに若貴兄弟の母親が出ていた。彼女（藤田憲子氏）を指して隣の男が「これは確かな人からきいたのだが、兄の若の花は初代若の花の子供なのだ」と話し出した。

私は実はこの話を聞くのはこれが3度目であった。三度とも、このことを話す人は必ず「確実な人」とか「信頼できる人」から聞いたと前置きをするのだ。証券業という情報産業に長く身を置いてきた私は、情報の真贋を分析することが習性になっている。初めて聞いたとき、私が思ったのは「信頼できる人」とは何なのか？ということであった。その人の社会的地位が高いということなのか？嘘は言わない人ということなのか？騙されることがない人ということなのか？情報の信憑性を考察する時に考えるべきことは①そもそも自分ごとき人間にその情報が入手される可能性があるのか？つまりその情報を話している人間がその情報を伝える立場にある人間か？②その情報は誰が発信したものであると考えられるか？③その情報は果たして第一次情報（発信者からの直接の情報）であるか、もっと下位の次元の情報であるのか？④その事実在具体性があるものなのかどうか？等を吟味しなければならない。そこで、ある意味で、藤田憲子氏にとって致命的なこの話の内容を吟味してみよう。これが「事実」だとすると、この「事実」を知りうる人間は初代若乃花と、憲子氏だけである。そしてこの話が、ただでさえ寡黙な初代若乃花の口から他人に語られることは絶対にないと断言できるだろう。またこの事実は憲子氏にとって先ほども述べたように致命的な事実であり、この事実は憲子氏は墓場まで持って行くに違いない。ということは、この「情報」は発信者がいない情報なのである。従って第一次伝達者がおらず、それ以下もありませんことになる。この噂話は恐らく、飲み屋の席で、お兄ちゃんと弟は似てないよね？という話から始まり、お兄ちゃんのほうは父親よりも兄の若乃花に似てるよねと展開し、遂には噂話のような下世話な内容へと発展していったものと考えられる。

昨年の夏、この業界の主とも思われる人から、「リクルートが2014年の上場を目指しており、上場すれば2万円から3万円の値がつくといわれている。ところが、東京電力がその株を300万株保有しており、今般の事故を補償する為、政治家から売却することを迫られている。この度、私にこの件を全て委ねられることになった。ことは隠密を要する。ついては、一株8500円で買い取ってくれる先を探している。本来なら300万株一本が望ましいのだが、50万株単位でも止むを得ない。報酬は200円だ。」という話が入ってきた。私は①今のような状況下の東京電力において、このような公的な保有株（ダイエーが保有していたものを引き取った）を隠密裏に処分することはありえない。②仮にこれが事実だとして、その受け渡しはどのようになされるのだろうか？株式の権利の移転。お金の受け渡し。仲介に入った私への200円の受け渡し。それを東京電力がどうやって処理するのか？と考え、ガセだと結論した。二週間後、ダイヤモンドにリクルート株の特集が組まれ、当該株式は一昨年中に処分されたようだと書かれていた。 以上